

# START Box ササハタハツでは、12月10日に「オープンアトリエ」が開催されました。

会場：START Box ササハタハツ

実施日：2023年12月10日（日）13:00～16:00

（同時開催：サイアナタイプワークショップ 13:00～ / 15:00～）

参加者：START Box ササハタハツ利用アーティスト6名

来場者：153名（延べ人数）



## <オープンアトリエ>

START Box ササハタハツでは、12月10日（日）にオープンアトリエを開催しました。冬の季節においても比較的暖かい天候に恵まれた当日は、アート関係者や地域の方など多くの方にご来場いただきました。

6名のアーティストのアトリエでは、絵画や写真作品の展示や、アーティストによる実験等、多様な作品や制作手法に触れることができる機会となりました。また、アトリエを利用しているアーティストもお互いのアトリエを行き来するなどの交流もうまれました。



来場者に制作手法を伝える西村祐馬氏（中央）



作品を通じて来場者同士が交流をしている高橋真美氏のアトリエ

## <サイアナタイプワークショップ>

高橋真美氏による、サイアナタイプ（青写真）のワークショップも同時に開催。サイアナタイプは1842年に発明された太陽光で焼き付けを行う写真技法で、当日は、高橋氏の用意

した切り抜きや植物など様々な素材を用いて参加者が独自の像をつくり焼き付けを行いました。参加者たちは普段触れることがない焼き付け方法を興味津々な様子で楽しんでいました。



## <当日の様子>

①



②



③



④



⑤



⑥



① 作品の説明をする様子（滝本優美 氏）

② 作品制作のための新しい構想を実験する様子（大原崇嘉 氏）

③ ワークショップにて参加者の焼き付け具合を確認する様子（高橋真美 氏）

④ 手で触れられる写真作品について説明する様子（西村祐馬 氏）

⑤ 来場者に向けて熱心に制作過程を説明する様子（松本千明 氏）

⑥ 利用期間中に制作した作品がところせましと置かれているアトリエ（三澤亮介 氏）



# オープンアトリエ開催！



ワークショップ  
も開催！  
(詳細は裏面)

[開催情報]

令和5年 **12月10日(日)**  
**13:00~16:00**



START Box ササハタハツで活動している  
アーティストのアトリエを公開します。  
絵画や写真など様々なジャンルのアー  
ティストと交流できる貴重な機会ですの  
で、ぜひお立ち寄りください

(c) Yuiro Ichioka, TAM Inc.

## 入場無料

(予約不要・直接会場にお越しください)

START Box ササハタハツ

水道道路沿いにある笹塚・幡ヶ谷の都営住  
宅の空き店舗（6区画）をアトリエ等に整  
備し、若手アーティストに提供することで  
継続的な創作活動を支援する事業です。

公式ウェブサイト



X(旧Twitter)



※悪天候等により、開催を見送る場合がございます。  
最新情報は公式X(旧Twitter)にてお知らせします。

【主 催】東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京  
【問合せ先】公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 企画部企画課  
TEL : 03-6256-8853(平日10:00~18:00) E-mail : rekibun\_promo@rekibun.or.jp



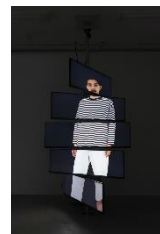
これまでのオープンアトリエの様子  
<https://startbox.jp/archive/>

笹塚

大原 崇嘉（おおはら たかよし）

1986年神奈川県生まれ。東京藝術大学大学院映像学科メディア映像専攻修了。色彩や構成、人間の奥行き知覚の考察をベースとした視覚表現など。2017年からはアーティスト・コレクティブのヨフのメンバーとしても活動している。

【受賞歴】第67回カンヌ国際映画祭〈短編コンペティション部門ノミネート〉。第24回 文化庁メディア芸術祭〈アート部門審査委員会推薦作品〉



「Gazes」(2023)  
素材：ディスプレイ、3Dセンサー、PC  
Photo: Shunta Inoguchi

高橋 真美（たかはし まみ）

東京都出身。日本大学芸術学部デザイン学科卒業。営業職や起業家コミュニティでの仕事を経て2022年よりフリー。グラフィックデザイナーとしてのエディトリアルな視点を持ちつつ、記録・保存と写真との関係性をテーマにする作品を公開している。

☆サイアナタイプ（青写真） ワークショップ開催！

1842年に発明された、太陽光で焼き付けを行う写真技法を体験します。

1回目:13時～、2回目:15時～（無料、約30分間、予約不要、各回先着3名まで）



上：「ある危機言語のための写真的実践」(2023)  
左下：サイアナタイプワークショップ (2023) PHaT PHOTO SCHOOLにて実施  
右下：「果樹を架ける」(2023)

滝本 優美（たきもと ゆみ）

武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻油絵コース修了。「絵の具を描く」アーティスト。ペインティングナイフを握り、クリームを塗る行為のように絵の具をのせていく。「かたちや色から想起され、何かに見えるがただそこには絵の具という物質が存在している。」- (Statementより引用)。2024年6月Gallery Qにて個展開催予定。



「between」(2023)  
キャンバス、油絵具 910×910mm

幡ヶ谷

西村 祐馬（にしむら ゆうま）

1995年生まれ。日本大学芸術学部デザイン学科卒業。ビジュアルアーティスト、写真家。個人の存在を未来まで遺すことをコンセプトに制作を続ける。これまでに「KG+SELECT 2023」ファイナリスト、「TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD 2022」審査員個人賞、Art Fair Beppu 2023など。



「Touched (Skin)」  
Artwork: Yuma Nishimura  
Archival Pigment Print on leather

松本 千明（まつもと ちあき）

岡山県笠岡市生まれ。多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科卒業後、広告制作会社、デザイン事務所を経て2018年に独立。グラフィックを中心にデザイン、ディレクション、大理石をモチーフにした作品制作を行っている。主な展覧会に、2021年『MARBLE is』（大倉精神文化研究所）、2023年『Transformation』（株式会社白水社）がある。



「ROOM\_#008」(2023)  
木製パネル、アクリル絵具、その他 364×515mm

三澤 亮介（みさわ りょうすけ）

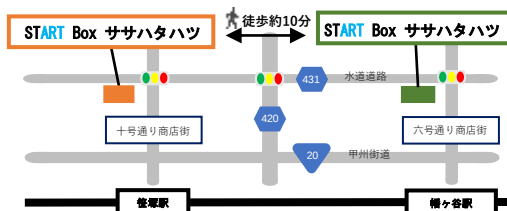
1992年福井県生まれ。立教大学映像身体学科卒業後、写真家を経て2020年より現代アーティストの活動を本格化させた。映像や写真を自身のバックグラウンドに持ち、その多角的な視点を平面作品に凝縮させる。主な個展に、「NOH」(HOFA Gallery、ギリシャ、2023)、「Project the Process」(AUGHT Gallery、ニューヨーク、2023)、「Tracing the night」(333Gallery、台北、2022)、「CUT!」(MEDEL Gallery SHU、東京、2022)、「SUDDEN」(銀座 蔦屋書店、東京、2021)など。



「Trois」(2021)  
インクジェット印刷、アクリルマウント



渋谷区  
コミュニティイン  
「ハチポ」  
がもらえる！



笹塚

渋谷区笹塚2丁目42番  
都営笹塚2丁目アパート 42-15号棟1階  
京王線「笹塚駅」徒歩約6分

幡ヶ谷

渋谷区幡ヶ谷2丁目52番  
都営幡ヶ谷2丁目第2アパート 52-1号棟1階  
京王新線「幡ヶ谷駅」徒歩約7分

※両スペースとも駐車場・駐輪場はありません。